

平成 28 年度長崎大学市民公開講座「いまどき男前な生き方～イクメン・イクボスとワークライフバランス～」開催報告

【日時】平成 28 年 12 月 6 日（火）18：00～20：00

【場所】長崎大学坂本キャンパス
良順会館ボードインホール

【対象】一般（学内教職員含む）

【プログラム】

司会：長崎大学 ダイバーシティ推進センター 藤井直子 コーディネーター／助教

開演挨拶 長崎大学 片峰 茂 学長

イントロダクション 長崎大学 河野 茂 理事

第一部 基調講演

「仕事も私生活も、欲張ろう！～ワーク×ライフ×ソーシャル＝ハイブリッド人生～」

講師：NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事／NPO 法人コジカラ・ニッポン 代表 川島 高之 氏

第二部 パネルディスカッション

長崎大学教職員による事例発表とディスカッション「(みんなで聞こう) イクメン・イクボスからのメッセージ」

登壇者：川島 高之 氏

長崎大学病院 移植・消化器外科 藤田 文彦 病院准教授

長崎大学病院 第二内科 中富 克己 助教

座 長：長崎大学 伊東 昌子 副学長／ダイバーシティ推進センター長

【開催内容】

1. 開演挨拶

開演に先立ち、片峰茂学長より挨拶がありました。片峰学長は、人工知能 AI やロボット技術の向上について触れ、20 年後には今ある職業の半分はなくなり、一週間の労働時間も非常に短くなる時が来るかもしれない、だから仕事を取ったら何も残らないということが起きないように仕事以外での生きがいを作ることが大切であると述べました。

2. イントロダクション

続いて、イントロダクションとして河野茂理事よりお話がありました。河野理事はまず、生まれてから寿命を迎えるまでを人生の時計と捉え、人生には限りがあると強調しました。そして、若い頃は先輩が夜遅くまで仕事をしていると自分が先に帰ることは出来ず、今のようなワークライフバランスは信じられなかったが、留学先で、男性が

平成28年度 長崎大学 市民公開講座

平成28年 12/6 (火) 18:00～20:00 (17:30開場)

長崎大学坂本キャンパス 良順会館 2Fボードインホール (長崎市坂本1丁目12-4)

いまだき男前な生き方

イクメン・イクボスとワークライフバランス

「イクメン・イクボス」は、男性が働きながら子育てをする姿を指す言葉です。イクメンは「イクメン・イクボス」の略称で、イクボスは「イクメン・イクボス」の略称です。イクメン・イクボスとは、男性が働きながら子育てをする姿を指す言葉です。イクメン・イクボスとは、男性が働きながら子育てをする姿を指す言葉です。イクメン・イクボスとは、男性が働きながら子育てをする姿を指す言葉です。

基調講演 「仕事も私生活も、欲張ろう！」～ワーク×ライフ×ソーシャル＝ハイブリッド人生～
講師：川島 高之 氏
NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事
NPO 法人コジカラ・ニッポン 代表

参加無料 先着200名 要事前申込 申し込みは11/28(日)迄 [託児あり(有料)]

プログラム

＜第一部＞
●開演挨拶 長崎大学 片峰 茂 学長
●イントロダクション 河野 茂 理事
●基調講演 「仕事も私生活も、欲張ろう！」～ワーク×ライフ×ソーシャル＝ハイブリッド人生～
講師：川島 高之 氏
NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事 / NPO 法人コジカラ・ニッポン 代表

＜第二部＞
●長崎大学教職員による事例発表とディスカッション 「(みんなで聞こう) イクメン・イクボスからのメッセージ」
登壇者：川島 高之 氏
長崎大学病院 移植 外科 藤田 文彦 病院准教授
長崎大学病院 第二内科 中富 克己 助教
座 長：長崎大学ダイバーシティ推進センター 伊東 昌子 副学長 / センター長

申込方法 詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページ <http://www.cd.nagasaki-u.ac.jp>

TEL: 095-819-2179/2889

【申込締切】
事前申込み 平成28年 12/1(水)
当日申込み 平成28年 11/28(日)

【出展】長崎大学病院、メディアカレッジ・ワークライフバランスセンター 【協賛】長崎新聞社、長崎県、長崎市、長崎県医師会、長崎県医師会、長崎県商工会、長崎県商工会議所

主催・ 후원者社 長崎大学 長崎大学ダイバーシティ推進センター
TEL: 095-819-2179/2889 FAX: 095-819-2150
E: ma@omoyai_seminar@cd.nagasaki-u.ac.jp <http://www.cd.nagasaki-u.ac.jp>



家族との時間を十分に取る働き方をしている姿を目にしたことで考え方が変わったと振り返りました。さらに、息子夫婦を例に挙げながら、出産を機に家庭に入ることに心地よさを感じる人や仕事を優先したい人等、人それぞれ考え方があるとした上で、限られた人生の時間の中で、優先すべきことを計画的に行うこと、時間の使い方を考えることが大切だと締めくくりました。



3. 第一部 基調講演

第一部は川島高之様による基調講演「仕事も私生活も、欲張ろう！～ワーク×ライフ×ソーシャル＝ハイブリッド人生～」でした。川島様には、たくさんのスライドから、本日の参加者に合った内容を選択し、前・後半に分けてお話を進めていただきました。



前半は、「ワークライフバランス講座：ハイブリッド人生のススメ」でした。人生は1回きりだからこそ、ワーク（仕事）、ライフ（自分事）、ソーシャル（社会事）、3つとも満喫するハイブリッドな生活を目指しましょうということです。子育てなどのライフや趣味などのソーシャル活動に積極的に参加していると、それをした人だけが知っている素晴らしい見返りが得られ、コミュニケーションの引き出しが増え、ワークの能力が高まる。ワーク・ライフ・ソーシャルはそうしたシナジー関係にあるそうです。



また、男性がハイブリッドな人生を送るためには、仕事関係以外の居場所作りが特に重要であると訴えました。定年後に暇でやることなく、居場所探しに苦勞することがないように、職場以外で活躍する領域を広げておくことが大切なのです。また、日頃から妻に対して心配りや感謝を示し、家事や育児への参加、あるいは妻の職場復帰への理解があれば、定年後も良好な関係が築けるとのことです。

後半は、「イクボス講座：これからのリーダー像」についてでした。女性活躍推進法の成立により、今までの男性と同じ働き方をする女性のみを支援するという考え方から、女性が子育てなどをしながら働けるような環境を整えようという考え方にシフトしたことで、優秀な女性は理解のあるイクボスのいる組織に集まってくるようになりました。イクボスの心得としては、上司自身が仕事以外の居場所を持ち私生活を満喫すること、また、転勤などで部下の家族や人生を壊さぬよう、部下の私生活を理解し尊重することの両方が大切とのこと。組織内で公私をシェアすることで、大変な時にカバーし合えるチームワークが生まれ、働きやすい職場になります。すると優秀な人材が集まり、チーム力の底上げにもつながります。ただし、自由すぎても厳しすぎても業績は下がるので、上司は双方をバランスよく合わせ持ち、部下自身も組織の成果達成に強い責任感を持つことも必要だそうです。

最後にメッセージとして、「ワークライフバランスは自ら取りに行くこと」、「できない理由を挙げるのではなく、できる手段を考えること」、「ワークもライフもソーシャルもと人生を欲張る貪欲さを持つこ

と」の3つを挙げ、締めくくりました。

4. 第二部 パネルディスカッション

第二部は、長崎大学教職員による事例発表とディスカッション「(みんなで聞こう)イクメン・イクボスからのメッセージ」でした。はじめに、座長の伊東センター長より、先生方には内緒にして、センター長の知り合いである奥様やお子様への取材も行っていたことが明かされました。



中富先生は、異動が多い奥様の仕事に配慮し、勤務先を調整しながら同居・別居を繰り返してきたそうです。子どもを看護師さんに世話してもらいながら患者さんの処置をすることもよくあったと振り返ると、大きな体で小さな子どもを抱っこしている姿をよく見たとイントロダクションでお話された河野先生が続けました。奥様いわく、休日も家事をしてくれ、一般的なお父さんに比べたらよくやってくれているそうです。一方で、「私だって頑張っているのに、夫ばかりすご〜いって言われる」という周囲の決め付けに、もどかしさも感じているようでした。



藤田先生はなぜ自分が(登壇者として)呼ばれたのか分からなかったと率直な気持ちを語っておられましたが、中学在学中の娘さんをイギリスに送り出したのは子どもの好きなことを伸ばしてあげたいというスタンスだったとし、家族のやりたいことを尊重している様子が見受けられました。さらに、奥様はインタビューの中で、学校行事に積極的に参加してくれている。まめじゃないと外科医はできないと、イクメンぶりを認めていました。

続いて、事前にお聞きしていた共通の項目について、ディスカッションが交わされました。パートナーのキャリア形成のために努力していることとして、「時間・予定のすり合わせをする」、「仕事に口をはさまない」、同僚・部下の仕事とプライベートの両立のために努力していることとして、「迷惑をかけることを事前に言うておく」などの回答がありました。これらを受け伊東センター長は、パートナーのキャリアを邪魔しないこと、子どもの夢・希望を尊重していること、仕事では中核を担いながら後輩のワークライフバランスやキャリア形成に配慮していることなどが伝わってきて、本当にいまどき男前だと感想を語りました。しかし、藤田先生の奥様による「私の方が男前かも？」とのコメントが紹介されると、会場は笑いに包まれました。

さらに、奥様二人のインタビュー映像が流され、中富先生の奥様からは、配慮しながらもチャレンジングな仕事を任せてくれたイクボス上司のお話が、藤田先生の奥様からは、ご自身がイクボスとして男女問わずスタッフに産休・育休取得を勧めているというお話が紹介されました。

最後に、自身の仕事と生活のために絶対に譲れないこととして、お二人から「職場以外の人との交流を大切にする」との回答がありました。川島様はこの回答に共感すると共に、多忙な医師であるお二人

のイクメン・イクボスぶりを讃えました。

本講座には、多くの皆様にお集まりいただきました（参加者 95 名：長崎大学教職員 43 名、長崎大学学生 2 名、一般 44 名、演者等 6 名）。

参加者アンケートでは、「共感できる部分、考え方が多数あった。是非実行に移したい」という意見が多く寄せられたほか、「男性目線でのワークライフバランスの取り組み紹介。ワークライフバランス＝女性が考えるものと捉えている方に聴いてほしい内容だった」、「理想としては共感が持てた。しかし、現実的にはこんな配慮ができる上司は少数派だと思う」など、今なお社会に根強く残る課題に言及したものも見られました。



(了)